

鈴木重行 編著, 平野幸伸 著

「ID 触診術」

柳澤 健
(首都大学東京)

1999 年に「ID ストレッチング」が刊行されて 6 年余りが経過した。「ID ストレッチング」は疼痛抑制や筋緊張低下・関節可動域改善を目的に日本で開発された手技である。この手技の開発者である名古屋大学大学院の鈴木重行教授が、同手技の講演に全国を飛び回っているなかで、「正確なストレッチングを行うには、まずセラピストが個々の筋を正確に触診できることが基本になる」ということを実感したのであろう。このような必然性から本書「ID 触診術」が上梓されたと考えられる。

疼痛抑制やストレッチングを行うには、まず個々の筋を確実に触診できる基本に加え、軟部組織の機能的変化に対する治療では、単に筋触診ができるだけでなく治療部位が同定できる触診術が求められる。言い換えると、触診時の生体反応を触診指で感知しつつ、治

療すべき部位とそれ以外の部位とを個別に(ID: individual)認知することが必要とされる。

本書は、まず触診の基本事項①原則、②ランドマーク、③感じ方、④圧迫力、⑤軽度伸張位、⑥筋への圧迫力、⑦触診の仕方、⑧個体差が簡略に記載され、体幹・上肢の筋(56 筋)と下肢(40 筋)の触診法と続く。触診法では①筋の起始・停止、②神経支配、③血管支配、④作用、⑤筋連結に加え筋ランドマークや触診ポイントが詳細に記述されている。

筋ランドマークは見事なカラーイラストに仕上がっている。触診ポイントは美しいカラー写真で構成されている。ただ 1 つ難をいえば、モデルに男性を起用していれば、さらに解りやすい体表解剖の写真が得られたであろう。

本書は、中枢神経疾患や整形外科・スポーツ傷害(外傷・障害)の理学療法や作業療法などの治療に欠かせない座右におくべき書であると同時に、整形外科医や理学療法士・作業療法士を目指す学生にとっても有益であることを確信する。

●A4 判・212 頁 定価 6,300 円(本体 6,000+税 5%)
2005 年 三輪書店・刊